



神皇正統紀

自一至三

增
775
134



僧 4
775
卷 134

神皇正統記

神皇正統記卷之一目錄



天神七代
 國常立尊
 國稜槌尊
 豊斟流尊
 泥土耆尊
 沙土耆尊
 大戸道尊
 大菅道尊
 面足尊



憎根号

伊弉諾号

伊弉册号

地神五代

天照太神

忍穗耳号

瓊瓊杵号

彦火火出見号

鸕鷀草葺不合号

目錄中一之終

神皇正統記卷之一

大日本之神國なり天祖よりめて基成ひて

日神がごとく統を傳へ給ふ家國の事世事あるは天朝

よりはまきをくひたり此由より神國といふあり神

代より豊葦原の子孫百秋の瑞穂よと云天地開闢

のちよりめよりは名あるは天祖國常立号陽神陰神

よらばあり給ひて勅りやうより天照太神と孫号

に由たりまじりて此名あはれ根本此号れどもは

知ぬ屋一又大八洲國よふ是は陽神陰神

此國を生し給ひてうへの鶴やをたりてよあらく

大正二年一月廿日
中村権雄氏贈

名は家々なり又耶麻と云是の大八洲の中
津は名なるを八りある家あびて津唐唐を
津根列といふ神を生じひ一是を大日本豊裕津
列を名はく今を曰十八ヶ國をわたり中列を
引よよ神武天皇東征より代々の宮都あり依
るま名はくとも餘七列とも是を耶麻と云
なる一唐をも周の國あり出たり一天下を周
こつひ漢の地より拓けりこは海内孤漢と名付
あり一あつ一耶麻をいふは山迹をいふ
ありむり一地わらもく流のるやひいも乾

中山とのみ流来一と云跡をいふは山迹と云
或を古語より居住をいふ云山より居住せしは
山止なりともいふなり大日本とも大倭ともいふ
此國漢字傳く存國の名はかくり字といふ大日本こ
定て志を耶麻と云漢を漢せしはなり大日靈神國
なるはそを漢ともいふ海又日の出るありちるは
然しは義をかくれど字はまに日乃をいふ漢す
耶麻と云列せり此國の漢字は列するふはなかく
かくのおと一と此はく日乃とこれいふるは文字り
よはなかり國の名とせり一ありは又古よと大日本

ととある大の字を加へて日本ととあり別り名る大日本
を秋津と云懿徳孝元等此津邊皆大日本の
字あり垂仁と云乃神女大日本如と云是皆大の字
阿日天神饒速日等天の磐石のつら大座をがかり
て座をん日中の必と云ふ神武乃神日本磐
余と号しなる孝女と日本足開化と推日本こも
号し京行と云此神子不雅字を以日本武号と名付
なる是を大を加へ給なり皮是日一をやまを漢
せしむや大日靈の天と云いおん座を以て漢と云
つふとありまほ漢と云り字を以て傳りて傳と云と

此國の名り用きるを即於神と云又この字は耶麻
かと洲とく日本乃こもく大を加へると又除ても同
訓り通用しなり漢と云り倭と名はもふこもむ
く此國の人初と云ありしつらに此國の名は
いふと云と云ひるは家國と云漢字を即倭と名
付たりと云申漢と云り樂浪の彼土の東にあり海中に
倭人む百解國城と云りと云前漢のこもきてに通
く家と云一云よの秦の代よりきてにほ漢と云り大倭王の耶摩
推よ居と云みと云り耶摩推は是を君すと云り此國の
使人本國の例りより大倭と稱するによりかある

日本を東より西にわたりていづる世に波本ありと云
ふに波本は海にありて一帯ありて海にありて一帯ありて
典の流るる海にありて一帯ありて海にありて一帯ありて
ありて中間をみかき水海なり金山のありて四大
海ありて一帯海中にありて大洲ありて一帯ありて二の中
洲ありて南洲と云ふ陸部と云ふ又南洲の南にありて
なりて南洲の中心より河精達と云ふ山ありて山は頂より
池ありて河精達と云ふ山ありて山は頂より池ありて
と云ふ七由旬高き石由旬なり
一由旬と云ふ千里也六人を一歩と云ふ三
百六十歩と云ふ一里と云ふは里と云ふと云ふ
は樹列の中心よりありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて

と云ふ河精達山は南を大雪山と云ふ葱嶺なり葱嶺の
北は胡國雪山の南にありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて
國ありて北にありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて
換七由旬里ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて
ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて
また又九千里天竺を正中よりありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて
の中國と云ふ地のありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて
一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて
波本と云ふ海にありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて
の傳教大洲の中列なりと云ふ一帯ありて一帯ありて一帯ありて一帯ありて

列と東列の中なる遮摩羅と云列なるは是に花
嚴淨り東山の海中に山あり金剛山と云あるは
今の大使れ金剛山のゆなると云れ内道に此國を天竺
と云ると震旦と云ると東山の大海の中にあるは別名に
して神明の經統を傳へ給ふ國なりねかして世界
のゆなるは是に地開闢の初めははくともかりはる貴なる
事と云國は説きありと云れ説きは世のそ
まると云初と云 却は成住壞空の四あり名たの増減あり一増一減と
一初と云二十の増減と一中初と云四十初とありそ
天劫 光帝と云天應中より金と云の雲を起し梵と
に遍布を即大雨成りて風輪のよりはりて水

輪となる増長しと云天上にいては又大風ありて
沫浪伏立て空中には投をく即大梵と云殿となる
と水波舟と退下しと云れ欲界の法宮殿にあり須弥山
曰大列鐵圍山と成をかくて新徳の世界同時なる
と云成初と云 は万億の世界と
云大千世界と云 光帝のそ下生しと
云骨より骨を是を初と云此初初の間より二十の増
減あるはと云れ初は人の身光初をく照しと云
飛初自在なり欲界と云のそ今と云男女のおほ
ほよ地と云耳泉涌出味酥蜜のおと 或は味を免
味を免
と味を免と生は依く神通と云と云ひ光初も消て

世間大なりくくをありぬる生れ形ありては其の常道は
黒風海を以て日月二輪と深淵は須弥海の中腹と記す
曰天下賦てくくむきなるもくくして豊秋兩期去秋
あり地味りあるとくく教をくく字書くく地味
又くく林敷と云物あり或は地味 庶生又食とす林敷
又くく自然の統編をくく編くくの美味とくく
くり朝よかき夕よ熱を編次合せくくより力に
砂礫出来ぬはけりぬく二道ありて男女此れお各別小
あくはけく揺欲のけく賦をくく文婦と云はるる金
宅賦くゆへてたよ恒美光帝の病をけり下生はる

抱女人の胎中にくく胎生の庶生くれば其は統編
生せぬ庶生然くた者きくくをのくく境をくく
田種をほくくくく樹て食とくく他人の田種をくく奪
ひぬる者出来くくたくひようありてくくをくく
決する人ありくくくく庶生をくくくく一人の平
等王賦立名はるくく利帝利と云田種くく其初乃王
と氏王と号くく十卷の正法をくくおこるくく困
賦活めくく人民を敬おしす周淳提れくく下を
樂安徳くくして病患及くく大害をくくありて
命も極めくく久くをくく衆をくく民をくく子孫をくく

て久しく君をりしう漸く正法もたつてしもうあ
命も減ししう方心ふ家にいしう方心ふ家なりし
間よりあるしう猶痛の果報と具せり先天より金
痛實花海と王の帝も現をま王出流ふのあまこ
此物猶ししうの流るの小玉みな正しくおまあし
違ふのをしう昂に大列りしう又象と珠と玉女
后土と其木の瘡あり此七寶成就するは金痛王
と名に次々に銀洞鐵の猶痛王あり福力不
同はるしう果報をみたり劣なり劣なり劣なり劣なり
に一手を減ししうたきけしもおかしく一人を減して

たり百二十歳りあししう時款迦仏出流ふ或は百
た云是よりしたよ
三仏出流ひし十歳にいしうん二病やひ小三災と云ふ
有し人種やししうははしう一万人をあましうの
人告をたかひして又命も増し果報と云ふん
二万歳にいしうん河鐵猶王出し南一列を成し
四万歳の河洞猶王出し東南二列を成し六万歳の
時銀猶王出し東南三列を成し八万五千歳の時
金痛王出し四天下を統領すま勢ひ上りし人なり
しうかの時又減しむししう弥勒佛出流ふし
兼の時此は十八ヶの減増を成しかくて大大災と云

りおぼつとて 劫初 禪梵をまゝに焼ぬ三子大千世
 界同時滅盡不足と壞劫といふかくて 世空虚を思
 雲此にこそなる 天官劫云々のことくするおぼ七
 ケの大劫を毎く大水災ありはひひを才二禪まゝ
 壞す七これ大災七この水災を経て大風災ありて才
 二禪まゝに壞すおぼ大の三災といふあり 第四禪
 らふは肉介能る患あるよりなり 此は禪能伸り
 大天あるを四を凡夫の位一を淨辰とて淨辰とて淨果の
 聖者能伸りなり 此淨辰とてまゝに摩 薩 首 羅 天 王
 の宮殿を 大自法 色界に取項り 居てく 大に世界

と統御す天のひろき 及世界りわさる 樹天も廣
 あり初禪の梵宮ハ一に上り 色界にあり又心地を
 心天下のひろきなり けより 色界にあり又心地を
 うてりやいりこまの天ハ小の災に遷るゝ
 とも業力も除限をて 梵ハ盡かハ 匡没を
 尺をより 震旦ハ 梵ハ書契を事とする國なる
 世界建立をといふことあり 儒書ハは伏
 犧氏といふよりありありあり 但無書ハ 況ハ
 渾沌未分れとあり天地人のありありハ神代の
 おこりあり おぼより 或は又盤古といふありて 月ハ
 日月とれとて 髪を 草木に なるやりの事あり

をさしより下つて天皇地皇人皇を統ぶのもあつて此
氏打續てくれはくのはありま間敷弟系を續けりま
家朝のちちめ天神の種をうまて世界に建立
するはさくちを皇統なり似ては方もあるやれ
ども是も天祖よりこのちち統統たるはさくち
種まし海をり天竺より其あぢひをて後國の初れ
民皇王を應たをめた播ひあつてより相續せり
又世らありてちその種姓をたかくあつてはさくち
力あまは下方の種も國主と成あるはて天竺を統
領するやうとあるはさくち震旦又二とさくちさくち

ふ國をりびり世はかた道ありてより時と順次
ちちひと授くは初ありてはより一種をたてむるは
乳せりなるまうちちちちちと國をたてさくち
民間より出くちちひは居るはあり戒禁よりたて
ふさうをへるもあり或は累世の居るはさくち志のぎ
はり種をたてはち有儀氏ははてちの氏姓は後
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
ちのちち唯家國のちち地ひちちちちちちちちち
ち日ちちちち日嗣と史記ふるはさくちちちち
一種姓の中にちちちちちちちちちちちちちちち

まがらひ正しく道ありとくうたもちまゝくもる是を
なましく神代の御掬ちかありとむらして餘國よこくにりおとれる
へまのまもこたり神代なるのまをまゝく影かげは
云ふのまも根元を知りしむのみぞりうらき端はし
も成ぬ魚いさなもまほのしを救たすりんたの柳やなぎも勅あまのさしし侍うらむり
神代もまも正理ただしもく文ふみ傳つたへるいとまは宮みや人ひとりともある
して常とこにまこ申まをのたまふりまのせは純まこと道みちは神かみ皇みま正ただ統と統と
とま名なは家いへ傳つたへるままて地ちいさく分わかるるまゝ時とき渾ま
沌とんとして國くにもまこくこ難たがひ子これこまゝくくりて牙はを
ゆくめるとまは法はふ陽やうの元もと初はじ末はつ分の一ひと丸まる也なりま丸まるは

免まぬくもれを清きよくぬらうなるは多おほかむまゝく天あまとなり
おまゝく濁にごするはは井いと地ちとなるまゝ中なかつり一ひと物ものな
まゝり出いでなまゝくく葦あし牙がは下したりり昂あがり化けして神かみと
なりぬ國くに常とこ立たつるまゝ戸かど又また天あま神かみ中なかつまは神かみとま
なる此こゝ神かみり水みづ大おほ本もと金かねおのま約やくの法はふまゝ海うみを
先まづあ法の神かみりあゝり道みち跡あとふを國くに枝えだ樾つち言ことと云い次つぎは
大おほ徳とく此こゝ神かみとまま耕かき濟いるまゝまのたひひりあをぬ
純まこと男おとこにままますす純まこと男おとことままま相あひま次つぎは本もと法はふの神かみと涯うへ出い
者もの言こと沙さ土つち者もの言ことと云い次つぎは金かね法はふの神かみと大おほ戸かど之の道みち言こと大
法はふ言ことと云い次つぎは出い法はふ此こゝ神かみと西にし足あし言こと檀たん根こんみと

云々地乃道相交つて名法陽れりるあり純色とくそ
あまひをくくつり此流神実りる國常立の
神よまきし油となる下しぬり徳をのく神とあ
らる道流の先を六代ともかきふ事なり二世三世此
世と云々なきにほあきふりや次り化生し流
る神と伊勢諸島伊勢丹島三島是を海とくを
陰陽の二りわきとく造化の元とをり流の上の
のハ程むとめくこの法なり此立法流ありとく新物
と生はるるめとくはつりて祖國常立の伊勢
流伊勢丹島二神り親りて宣く豊葦原の

千六百秋の瑞穂地あり汝流とあきま下しとく即
天の瓊矛と校あり流ふは矛又ハ天の逆戈とも二神此矛流
あきまとく天の浮橋の上りてきくはとく矛とあり下
あきかきとくり流ひりる陰海りる有きとく矛のさ
けりり滴り流系湖こりて一の流となる先と破馭盧
島と云此名り流とく秘流あり神代梵流かきとる
まあとあきとくある人なり大日本の國靈山なり
と云は流二神は流り流流り昂出の中流流流と
ハ流此流と化流と共り任なき少流流流和合と
夫婦のたありは矛と流とく天孫とくくあきとく

り終つりとも云又垂仁天皇の御宇に大倭姫の宮女
こそ思大神乃神教へたまはる國を成めり伊勢國
文石ともめ終ひ一時大回命と云神まつりあひて大
十鈴の河より寶物紙まわりをけり又と志ありしに
彼天逆弟六十の令鈴天宮に圖形ありき大倭姫命
よちこひそまもとゆりて神をたそと終寶物を
六十鈴の文に酒ありをまゝはあとも云又流祭り此
神を帝の竜神なりと云神ありりて地中におさめり
たまふ一より大倭姫神にこの流祭りと同流りたまふ
此神のあり流り終るにあらそ天祖國柱といふ神名

ありとも云びじ〜假取盧嶋り持るり終ひ〜
ゆふ〜うをり世の傳ふと云るはあゆり〜天孫の
あ〜之行なり〜神代より三種の神器のこ〜傳へ
終る〜き〜と終て六十鈴の河より流るるはあ
な〜但天孫も弟をむ〜と〜行ふと云るは
〜古語拾遺流とと弟之大汝に神のあ〜
〜の流なり流とと弟を〜大汝に神のあ〜
〜古語拾遺流とと弟を〜大汝に神のあ〜
〜の流なり流とと弟を〜大汝に神のあ〜
〜古語拾遺流とと弟を〜大汝に神のあ〜
〜の流なり流とと弟を〜大汝に神のあ〜
〜古語拾遺流とと弟を〜大汝に神のあ〜
〜の流なり流とと弟を〜大汝に神のあ〜
〜古語拾遺流とと弟を〜大汝に神のあ〜
〜の流なり流とと弟を〜大汝に神のあ〜

の吳説あり日本紀四事本紀古語拾遺等記のせきん
り末学はまひくは伝用しつゝかゝりて後世の中
程一変せざる事ありといふや其書りたむくは正と
まづうきふとやかくて此二神おるのて八の宿とう
行ふは淡路の洲とうもゆは淡道徳校別と云次は
舟の二名は別とうみます一月り四面あり一と愛宕賣
と云あまの伴と也二と飯依法賣と云是は淡波なり
三と大宜於法賣と云是は阿波なり四は速依別
と云まははは依也次は筑紫の洲とうまは又一月
に四面あり一と白目別と云是は筑紫なりは筑

前筑後と云二と豊日別と云是は豊國なりはまは
まはと云三は日別と云是は肥の國なり後り
肥前肥後といふ四を考久古法泥別と云あまは日向なり
は日向大隅薩摩と云筑紫豊國肥前日向をくは二神の次は
一は日向を生ます天法登都桓といふ次は對馬の別
を生ます天の授手依法賣と云次は隱岐の別とうは
すて忍許呂別と云次は飯波比別を生ます建日別
と云次は大日本を秋津洲とうもゆは天沖唐賣
豊秋根別と云すは是は八洲と云なり此外あり
たの宿を生ますは海山比津本のおやまのあま

あつらひてまゝてりうのたもと神よませは生れける神の
別とて山ははらり行へるをい別山と生れり神の
あつらひてまゝてりうのたもと神よませは生れける神の
とて二神とていひて空くおきてり大八別國およ
む山河草木をうゑりめり天の下に居るをそのを
うゑりてんやとて先日神とていひて神子光り
ふりてりてりてりてりてり二神よませは生れける神の
天よ送りあつて天上に居るをそのをそのをそのを
おとすをうゑりてりてりてりてりてりてりてりてり
日靈とていひてりてりてりてりてりてりてりてり
靈の字ハ靈と通ず一とてりてりてりてりてりてりてりてり
いりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり又て天

照太神ともや女神はくまふはなりてりてりてりてり
ますとて先つて日りに居るをそのをそのをそのを
はらりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
は天に居るをそのをそのをそのをそのをそのをそのを
素戔嗚尊はらりてりてりてりてりてりてりてりてり
神はらりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
ゆる神みか二神の別とてりてりてりてりてりてり
てりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
あつらひてまゝてりうのたもと神よませは生れける神の

やうく神退治は太陽神うへんいりて火を三股より
まはまの股をのこす神の血のちりもたぎひく
神とまきり経津主神 齋主の神 健甕槌神 武雷
今之槌取の神 麻呂の神 麻呂の神 祖なり陽神はさひく黄泉まへた
神としてあまのの松ありあり陰神うへん此の人を
一日り子歌は海までこのなまひもきは陽神を
百頭を生む一か室ひあり依く百姓を天益人
とも云死をふとのよませむまはのおほま也陽神より
江く日向の小石は橋橋原と云ふに神授けは此の時
あまの神化生一終り 日月神もこゝに 伊弉諾言神功
生終ふと云流あり

まぐに流りまもは天より天祖の命
即天よりまもは流りたるも成流も伊弉諾伊弉册を
林渚をり伊弉那天伊弉册言 伊弉册言 地神も一代
大日靈言も天照太神言又日神も言祖も言
なり此神の生は流りたるの流あり一も伊弉諾伊弉
册此言あひまひく天下のあまの言まはるんや
とく先日神とうり次り月神次は蛭子次に素戔嗚
みこ成生終りたり又伊弉諾言左の神子に白銅
忠鏡とるも大日靈言成化生一右の神子にたりて
月言成生一御首を絶りしてかつり足流ひり問

素戔嗚尊素戔嗚尊成生成生とあり又々伊弉諾尊伊弉諾尊日向の小戸に
川もくんとささぐり一はひり時々の御眼とあり并く天照
太神を生し右の御眼とありひて月讀尊を生し
御尊と洗く素戔嗚尊成生一はひり日向の日月神
の御名とあり化生の事とあり是は凡そはりかじ
又たけり一はひり天原と云ふ二はひり日向の日向
云ふは日本國と云ふなり八咫乃御鏡と云ふを御
しと御成るる事と云ふと云ふ事と云ふ事と云ふ事
和光の御相もありと云ふと云ふ事と云ふ事と云ふ事
之より清方清方の成と云ふ存存と云ふ事と云ふ事と云ふ事

素戔嗚尊素戔嗚尊又母二神又母二神りやうはと云ふ根の國と云ふ事
流へる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
天上の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
性たあきさう能性たあきさう能と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
くして無れ侍くして無れ侍と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
あつた事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
誓約誓約の中より女成女成と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
生をばれ公生をばれ公と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
常常八坂瓊八坂瓊の玉と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
感感と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

そら子に思慮と云神のあまごりにより石凝姥と云神を
あくと日神の沖形の鏡を誘せしむまらう先なりと
る鏡誘神れりあはれ先を紀伊國次は誘はる
鏡うかりふましるる神悦あり行ふ初
にすしいま伊勢卒鈴又この明玉神と云く以瓊の
玉瓊はしり天北日神と云く志帯白幣とつ
くし先手置帆負杖知り二神とて大渡小渡の
杖を切く瑞此敵と流くむ公介をくま物をくふ
備は天香山の六百箇の志賢本を根あぐにく
上校もを以瓊瓊の玉瓊をけ中校もを以瓊瓊の鏡をれ也

下校はを志和幣白和幣とれかも天の志玉命言電産
也とて持け持くくむと思念命津速産吳の子或八神と
行禱らしむ天細目命真辟の葛瓊と流くに羅高
と手鑑水竹乃系飲胡木の系紙手茶くく著
鐸乃弟或持て石震此前にく佛優とくお共よ
うくひまふ又危標とあきくうに志て常世の長為鳥と
集つくたぐひく志為せしむ鏡はれ神と思太神等
りて志を此法石震くくれ居り葦原の中津國を
こもくなんいふ天銅目命かく志くくすとくれ
何して神子紙以て細目りあまく足跡み此時は天子

カ雄命といふ神思兼の般名々の賜り立給りりと云

いさあまを新殿に移し中臣の神命を

忌部天太王の神ありとありといふ日本紀の瑞世之傳に書り

日影之象こゝ川めらるるが瑞にすそをが中より

天始て晴くもあつとことにお見ぬれ暇うりに白

手取のづく哥ひ舞くありと天のあまうりあれおと一り

古治と基切なりとてこれあかしく云白いあおそののれふふ

とけ本の名し天細目の指行へるも東なりかくて飛と素戔鳥の言に

よせくおがをるるもふ度り玉戸をひく首の髪子足

の乳を扱く賜り其罪とくひく神逐にや

つと天波高天よりとてとてと出雲に敷れ川と云

りといり竹ふまふよりりりかおそとあり一のや女を

すへとく記あぞはく注り素戔鳥言を我と聞は

我が是國神也脚摩乳手摩乳と云此少女をわが子

あり奇禍田能といふ言は八箇れ少女あり年こと

八波の大地のたけり春とて今世とと免又のまこれい

とすしちり色は言ふよとんやと宣ふ靴のまきに

なるとちり色は此ととめを湯津のほり根り

なるとはくはに八や疆の酒を八の槽よりとて侍

竹ふまふとて彼大地をより頭とをのく一槽り

入て呑^{のくま}解^{くま}し福ありとるをさるるせる十握^{じゅうくわ}の釵^{くわ}とぬあくと
 すくに切^きつ尾^びよりりて釵^{くわ}の又^{また}すこしからぬ割^わくと見
 行^ゆへて一の釵^{くわ}ありまよ上^ありば子^この雲^{くも}あり新^{あらた}道^{みち}は
 天^{あめ}のひら雲^{くも}の釵^{くわ}と名^な付^け日本武尊にひたりてあはたりたりて京羅
の釵と云をよきより根田の社にありませ
 乞^こ奇^かこはるるこなり家^{いへ}何^{なに}らあへて私^{わたし}あけせんやと
 宣^{のたま}く天^{あめ}照^て太^た神^{かみ}よなりよれおたりまはちぬ雲^{くも}の
 清^{きよ}地^ちりつり宮^{みや}瓜^{うり}とそ編^い田^で形^{かた}と恒^{とこ}行^ゆふ大^{おほ}己^{おの}貴^{のみ}神^{かみ}
大汝を生し思く素戔嗚島を流し根の國
大汝を生し思く素戔嗚島を流し根の國
 乾^{かわ}すぬ大^{おほ}汝^に神^{かみ}此^{こゝ}國^{くに}りそ肉^{にく}とそ今の世の
大社よます天^{あめ}下^{くだ}を
 徑^{けい}美^み葦^{あし}原^{はら}の地^ちと行^ゆひたり依^よとそ是^{こゝ}を大^{おほ}國^{くに}

この神とも大^{おほ}物^{もの}とこと中^{ちゆう}とそ幸^{さい}魂^{たま}奇^{あま}魂^{たま}と大^{おほ}倭^{やまと}の
 之^{この}神^{かみ}の神^{かみ}ります
 弟^{あに}二代^{にだい}正^{ただ}武^{たけ}吾^{われ}務^む速^{すみ}日^ひ天^{あめ}志^{こゝろ}德^{とく}年^{とし}高^{たか}言^{こと}高^{たか}産^{うみ}靈^{たま}言^{こと}女^{むすめ}
 栲^{たか}幡^{はた}十^{じゅう}と^と命^{のみこと}にあひく競^い速^{すみ}日^ひ高^{たか}瓊^にと^と杵^{きね}尊^{のみこと}を^を生^{うま}
 ちりく吾^{われ}務^む葦^{あし}原^{はら}の中^{ちゆう}別^{わか}りまもまへるるを
 弟^{あに}生^うま^ま速^{すみ}日^ひ高^{たか}下^{くだ}を^を行^ゆへて天^{あめ}上^あり
 為^なす先^{まづ}競^い速^{すみ}日^ひ高^{たか}下^{くだ}を^を行^ゆへて天^{あめ}上^あり
 靈^{たま}言^{こと}十^{じゅう}握^{くわ}の瑞^{まぎ}寶^{たま}を^を授^{たま}へ瀛^{やう}津^{しん}鏡^{かみ}一^{ひと}色^{いろ}津^{しん}鏡^{かみ}一^{ひと}
 八^や握^{くわ}釵^{くわ}一^{ひと}生^うま^ま一^{ひと}死^か及^{およ}玉^{たま}一^{ひと}足^あ玉^{たま}一^{ひと}道^{みち}及^{およ}玉^{たま}一^{ひと}地^ち以^も礼^{れい}一^{ひと}時^{とき}以^も
 礼^{れい}一^{ひと}品^{ひん}物^{ぶつ}以^も礼^{れい}一^{ひと}あも此^{こゝ}高^{たか}を^をく神^{かみ}る^るく行^ゆひたり

九國社あきとくくはささくははつりしめ共勝るひり
行へりし時天照太神三種の神器を傳へ給ふ
はよ又瓊々杵高に也授ありし小鏡速日高を
ま瓜坂高の也此は日嗣の神よたまふ満ちぬなる
下はかり舊本中絶の統と照太神吾勝る天より
まると行へと地神の也一二よかそなるささめ天
下此をささる下とく生色給へゆりや
天三代天津彦火瓊々杵高天孫とも皇孫とも
皇祖天照太神高皇產靈高の御成りたまひし
葦原の中別のみとささくあふささく行へんは

爰に國神あきあまくだやとく下行ふるさか
常は天稚彦と云神とささくくんせめ給ひ
大女の神乃女下照あまの飛りさきとくささるゆき
とせりなりぬ依く名を紐をつらりてんせ
れとと稚彦射殺つと夫とささりのほりて太神
の清まへにあり血よぬまらさるは怪の給ひと授下
ささく天稚彦新嘗とくおせりらる胸ありあさ
くぬぬせり也一矢を忘ぬぬなりゆりよ又と
ささく女神とささる時経津主命経津主命攝政の神
瓊杵神あき神あきの勅とささるしらすまらり心雲園

印りたるせる叙とぬあつく地ははらわたりとまよに居る大
汝の神り太神の勅とまうつゝ一むき子入事代主神
今の葛木の おたにまうつゝひ中ぬ次の子健津各方刀裁神の
鴨もまます
坂宿の神 あくぐつをて逃行志瓜淑方の湖まうつゝ逃く攻
罪をくはるゝ又あくぐひぬうくてま痛くは忍神を
行ふ大物主の神 大汝の神ハ世國を去りてかれ行と名申ハ大物主ハ
事代主は神お共り八十方の神を引并て天にまは
太神こゝたやめ行なよ病一も八十方の神と成
あく皇孫と由降りまはさこまの也一と一

たりまは天照太神高皇產靈尊お斗て皇孫成るに
降ふ八百萬の神勅とまうつゝ清共まはつゝまつる
神乃上首三十二神ありま中ふ六部の神と云々天
皇屋令祖中臣の天太玉命祖忌部天鈿女命祖後女の石凝姥命
鏡作の玉屋令祖玉作のなり此中には中臣忌部の二神を
む孫の神勅とまうあく皇孫とあまけまなり降ふ
又三行の神實とまはあま一と一先あくかめ皇孫
よ勅一と一宮く葦原の子女百秋の瑞穂此國ハ家子
孫可皇之地也宜尔皇孫就白治家乃矣宝祚之
隆當与天壤無窮者矣又太神治子よ寶鏡を

もちたまひ皇孫りしゆのちて祝て吾見視此寶鏡當
能視家可乎同床共殿以爲齋鏡とありまふ八坂瓊
花曲玉天の叢雲の劔を加へて三種と云ふ又此く見
のおとくに分明なるをもちて天下り照臨したる
八坂瓊の玉所まじはるごとく曲妙と云つと天下を志
つしめ勢神劔をむまきまきと不須との成すのち
行へと勅ましりくまるとは此國の神寶にて皇統
一種をまじりく御まきまき内こふ是く此勅り是
より三種の神器せよ傳ふる日月星の天よ有たお
れ一鏡は日の神也玉は月の精なり劔を是れ氣也

ゆきまきなりいあらまきまきや作は寶鏡をけきに志る
傳る石鏡神命の作りはりしりく八咫の御鏡八咫玉
を八坂瓊の曲玉玉を命天照玉作はる也八坂玉劔を
素盞鳥等のけ行ひく太神よまきれ叢雲の劔
なりは三種りはまきまき神勅を御まきまき國の御
まきまき道なる一鏡を一物とまきまきくは私の心を
くして善象と思はるは是非善惡のけきあらはる
と云事なりまきまきまきまきく感應をみみ法津す
是正此本源也玉八咫和表順と徳とみ慈照の本源
なり劔を剛利決断を法とす智恵此本源也此徳

と翁文ど〜て八天下のわざま〜んこ〜内こ〜んか
一〜神勅あきら〜り〜〜と〜
刺〜神勅よあ〜り〜行〜り〜
〜中にも鏡成中〜宗廟の正神とあ〜
鏡を明と〜ちとせり〜
新を主神に〜又〜
ゆ〜神の〜と〜あ〜
あき〜
とぬ〜
も〜
も〜

冥顯り〜つおて〜
或は〜
あぶ〜
内介典の〜
〜
う〜
ま〜
儒書と〜
〜
天照太神の〜

よほり生戸はと大と出見言とや此三人の神子
狐と大もやうそ母の神とそこ分りて行つて父の神
悦ひまゝりたりはる天下と治め行ふ事二十二年八
子言二十二年といひはるはるまかゝるまかゝる地り
を神子の御事なる年序はるまかゝるまかゝる地り
とこよりいふ事なる年序と治めりてまゝりみくる
文を一抄天竺の流り人か言をたりて一八の四
衆にたりてとこより百年は一十年減てとこより百年の
時戒の百衆 釋迦佛出行すといふは仏のお世を鷓鴣草
尊不合言は末の海のものなまは 戒天竺元年辛酉仏滅の
は二百九十年はあはる二百より

上へかふ百年り一十年とましてとこををるるり此壇を
秤の言は初めはつてとこ迦葉と云仏のお行ひはる時とや
南り侍り人か二万衆は此の佛にお出ひはるりて
才四代表大と出見言と申御先大園海令海り幸まを
此言ハ山の者まゝりたりある病見えか治ひりよ各まを
かろもまかた言のり言は先乃釣釣とく行へりて
り釣をふせりて言の言釣を果りてくまて失ひ
治ひるをあれはにせめ治ひりてせんさかくと
海色よりと南より行き垣土翁 此神の言 糸の言あひく
憐れりてと謀てとめりてと 海神 綿積命 小童

虫の取らば送らば海女と云玉取と云天神の沖珠よめ
ぐもるまほりもく父の神より告てさめりつ遂よも
女ありあひ復行ふとせがりありてあひをたがを所
気色ありけまはま女又よひあをせく海なる大小
のうらとけを集て同らるるに女と云魚病ありとく
又くぞ志ぬとくし出らまはま種まり先取らりし
り夫のし釣をらりしなり一は糸女と云又は英ハ海神いま
志先くは女今より釣らふね又三珠に熊よ下いるなと
なん云ふくめある又海神に珠満珠となりて見とあ
ぐ行ぬとめをちを教ゆりりさてあふまらりま

釣とははばはらたま取て海に送らば湖みちき
て先取らばまぬあやうさ道く能優の民とあふん相
ひ行ひりうを千珠をもちて潮とあけけけひひま
是より天日嗣をたきまりりり海の中りてま玉
取らりし行ら産物りりりり海なるに産屋は作
待行くとやまらるるにま玉取らばとむきわく海
色より竹あひぬ屋は作く鷓鴣の羽とく物とまらり
あきも何いぞ沖あうま道行ふりまらて鷓鴣草草
不合るる中は又産屋は作ふやとまらり羽と物と
あふるなるりとなんまらて産の時見給ふなとあかし

まじりくくる此神の沛代七十万余年の程もやも流
あゝの三宮の初め伏犧と云まあり次り神農
氏軒轅氏三代あらせと其第八子四百四十二年
一八二万六千八百二十七年癸酉の年十万余の年あり 既經中
細言新古今集の序に伏犧皇徳の基として四十万年といひ 此の流よ
まじりくくる 少昊氏顓頊氏高辛氏陶唐氏也
有虞氏舜也と云ま帝あり合と四百一十年を以り
夏殷周の三代あり夏は十七日四百三十二年殷
は三十日四百二十九年周は世となりて其三代
の皇代昭王と云ま二十六年甲寅の年まると周
おろりて二百二十年この年を正月不令号の六十三万

五子六百六十七年にあるとまり今年天竺の辨迦佛
お生し満ちます同く六十三万五千七百五十三
年より仏御年六十一とく入滅し終りて其流あり
其昭王九子穆王の五十二年壬申りあるとまりそ
は二百八十九年あるとく庚申より其流あり此神
かゝるまをせましるるまをてその下を流め終り八
十三萬六千四十二年といひ是より上げると地
神六代といふ也二代をてよりとまり終りて六代を
西列の宮にくとおほく此年をおろりまし満ち神
代のよりなるまは初途ありうなりとく正月不令号八

十三萬余年すし一神しし小を神不磐余を号す此神
世より倭より人皇代となるも一曆數も見し一
なりにもるりうさくふ人も有るも一神道
の事おししてさるるも一神は秘長姫祖なる
まゝ奉命も經くるも一神の物もさへひも色か
るりねく人の代となるも一や天竺の説のま
く神ありて滅しきりともみと又百王傳し
たは神一節あり十三の百はあつて一窮
をたて百とさり百夜百姓をぐまはくあるも一
むし一皇祖天照大神と稱するも一みことたりせし
寶祚を隆當と天壤無窮とありて地をむし
かりて日月も光とありてたぬもいりんや三種の
神器世に現るし一流り窮有へくさふも一國
は傳る寶祚也あふまらるるも一夫日嗣
とす者行ふ實りかんねるも一

神皇正統記卷之二目錄

- 第十
崇神
- 第九
開化
- 第八
孝元
- 第七
孝靈
- 第六
孝安
- 第五
孝昭
- 第四
懿德
- 第三
安寧
- 第二
綏靖
- 第一
神代

文政八乙酉年十月十六日寫之 中村直道

第十一	垂仁
第十二	景行
第十三	成務
第十四	仲哀
第十五	神功
第十六	應神
第十七	仁徳
第十八	履中
第十九	反正
第二十	允恭

目錄中二之終

神皇正統記卷之二

人皇^{ひとみ}中^{なかつ}一代^{いちだい}神^{かみ}日^ひ本^{もと}磐^{いわ}余^{あま}彦^{ひこ}天^{あま}皇^みと^と中^{なかつ}屯^{とん}住^{すま}神^{かみ}武^{たけ}之^の
 名^なは^は多^た事^{こと}なる^{なり}地^ち神^{かみ}鷓^せ鷄^{けい}草^{くさ}薈^{かい}月^{つき}不^ふ合^{あは}号^{ごう}中^{なかつ}皇^み之^の子^こ神^{かみ}武^{たけ}之^の孫^{まご}母^{はは}玉^{たま}依^{より}
 振^{ふる}海^{うみ}神^{かみ}小^こ臺^{たい}の^の中^{なかつ}女^{むすめ}なり^{なり}伊^い弉^さ諾^{だく}号^{ごう}は^は六^む世^{せい}大^{おほ}日^ひ
 靈^{たま}号^{ごう}に^に入^い世^{せい}此^{こゝ}天^{あま}孫^{まご}なり^{なり}す^す由^{よし}を^を神^{かみ}日^ひ本^{もと}磐^{いわ}余^{あま}彦^{ひこ}と^と中^{なかつ}屯^{とん}住^{すま}神^{かみ}武^{たけ}之^の
 祚^{まは}代^{しろ}より^{より}の^のや^やま^まを^をあ^あと^とは^はなり^{なり}神^{かみ}武^{たけ}之^の中^{なかつ}古^こと^とれ^れを^をく^くを^を
 海^{うみ}あ^あの^の洞^{ほら}の^のゆ^ゆを^をめ^めた^たて^て戸^と津^つ名^ななり^{なり}又^{また}此^{こゝ}清^{きよ}代^{しろ}より^{より}
 代^{しろ}二^にと^と宮^{みや}而^{して}を^をう^うは^はさ^さし^して^て一^{いつ}は^はま^まを^を次^{つぎ}名^なは^はあ^あと^と神^{かみ}武^{たけ}之^の
 毛^けは^はて^て皇^みを^を六^む檀^{だん}原^{げん}の^の文^{ふみ}と^と中^{なかつ}屯^{とん}住^{すま}神^{かみ}武^{たけ}之^の又^{また}神^{かみ}代^{しろ}より^{より}を^をく^く
 尊^{たう}派^{はい}号^{ごう}と^と中^{なかつ}屯^{とん}住^{すま}神^{かみ}武^{たけ}之^の命^{こと}と^との^の人^{ひと}の^の代^{しろ}と^となり^{なり}て^て又^{また}天^{あま}皇^みと^と中^{なかつ}屯^{とん}住^{すま}神^{かみ}武^{たけ}之^の

弓一きくくはるはるは下を胡臣宿禰臣かきくしふ号出来
はかり神武の神時よりきくくはるはる事なり上たよき
とと命ともきくくはるはる事なり上たよき
天皇をきくくはるはる事なり上たよき
の事をもきくくはるはる事なり上たよき
たかみすくくはるはる事なり上たよき
今年辛酉元年なり筑紫日向の宮造れきくくはるはる事なり上たよき
きくくはるはる事なり上たよき
ゆあり此大以別をきくくはるはる事なり上たよき
よきく西偏の國なりておかきくはるはる事なり上たよき

天皇舟楫をきくくはるはる事なり上たよき
造のほろぐれ國をきくくはるはる事なり上たよき
きくくはるはる事なり上たよき
神あり外男は長髓彦と云天神の神子あはれありんや
とく軍をおかきくはるはる事なり上たよき
皇軍をきくくはるはる事なり上たよき
士卒皆病をせり疾も天皇大神健甕槌の神をきくくはるはる事なり上たよき
葦原の中津別をきくくはるはる事なり上たよき
ことありきくくはるはる事なり上たよき
城をいそがしむ時之叙ありきくくはるはる事なり上たよき

ら式をんちりく紀伊國名草津村り言念り言と云神
りあめては叙をきく下はり常事には天皇より心終ふ
士卒のやいぬせり常事とみおれぬ又神魂命の孫
武津之身命大鳥とありて軍の沖を記り伴ふ
ま川系天皇は名く八咫鳥と号しなす又金鳥の鵄
とてまてく望らるのまをん所よりまひりてあるやたり
是よりよるとて皇軍大りちるぬ宇麻志間見命を留の
ひが光るまの病と知りてたをるまて教り共軍を門
わくちるまのひりにたり天皇これにほせまてりて天より
くまてく神叙をさ体常く其大勲りてふまをん宣りせ

常事此常事とは豊布都の神と号し初め大和の布都り
布都りく常事と常事乃唐嶋の神宮りまて下は彼
宇麻志間見命又鏡速日乃天降りて其外祖高皇產
靈言さばりたまひり十種の瑞寶を傳へたり常事
天皇りまてくまはりて皇靈魂の瑞寶なりてなま茶と
けり先皇よりまはりて寶とすかつら宇麻志間見り
あはりたまひり大和のつをれりて其西に又布都り
号して此瑞寶を一はりてむく呪文とてりぬ事あ
るはまてく常事りてかくて天下こととまをんつしきほし
るは大和國檀原りてまてく常事りて常事りて常事りて

度天よの美はあゝ天照大神よを侍へたまへるに神乃
神器を大殿よ安坐し一床と曰くすし由て皇宮神
文のりたるは國々の神調物とて齋蔵りおき
あゝ宮物神物のりあまなりき天照屋根命乃
孫天孫命天太玉命の孫天富命あゝ神事以はるさ
と神代の例りこゝれども又靈時と鳥見出のり
速く天神地祇とまはるゝ免なりふに神代のは
辛酉れゝとみあゝの國の世が十七代りあゝ家君
惠王が十七年なり五十七年丁巳は周の二十一代乃君
定王が三年にあゝまると今年老子誕生とまは道教

の祖なり天竺の特也如来入滅しなまひり元年
辛酉とて二百年なりをまはる北天竺天下とほ免
冷よる七十七年二百年十七年ありまゝ
才二代綏靖天皇もより神代の世を神代才二の神乃治母ハ鞠
五十鈴御事代々の神乃女あり父乃天皇かましまし
二年ありとて即位しなまふ庚辰のりあり大倭葛城
ち皇宮宮りしゆまは二十一年庚戌の氣とありの
周は才二の代乃君靈王の二十一年なり今年孔子生ん
るやうとて是より七十三まゝたりし儒教といはれ
らる此道とむりし賢王唐堯虞舜夏のり免は禹

殷のちる湯國の所を先王武王周の國とせしむ
たも瓜をてきまひに道分は正しく一身を瓜
とて家瓜おさる國をばさめく天下をばさる宗
とる也道はこれ道まめくもすあは世とれま
人不正りを終りしゆよそのみちとなりて儒の道
瓜をてく河をりて天下をばさる事二千三
福ん字のさしおまひく

孝之代安寧天皇は綏靖すその子河母は千餘依
事代之神に神おまひをたりてそのえうの
即位大倭乃所塩浮穴の宮りゆすは天下瓜を

たすふこを三十八年の中七葉かまひく
孝之代懿德天皇は安寧孝二の子河母は津名底媛
事代之神の孫なり辛卯乃年即位大倭の輕
乃曲狭の宮りゆすは天下をばさる事四年
七十七葉かまひく

孝之代孝昭天皇は懿德孝一の子河母は天香津媛
息石耳命の女なり又の天皇かこれすく一年
ありしに丙寅の年即位大倭乃掖上池心はまじ
すは天下をばさる事三年百葉かまひ
まへ

孝六代孝安天皇を孝昭孝二の子神母八世懿皇是始尾
張の連乃上祖津世懿皇女なり乙武の〜即位天
倭比秋津命の宮り神〜天下と治り治事
一百二年百二十歳おま〜

孝七代孝靈天皇は孝安天皇太子神母八世押熊天皇
孝國押人命の女なり辛未の年即位大倭比賣田
廬戸の宮り神〜三十六年丙午りあ〜
乙卯秦の始皇即位此始皇他方とこの〜長生不
死乃菜瓜日本〜五帝三皇此遺

書成彼國り〜お始皇あ〜を是を送る
乙卯之十六年のりて彼國書を燒儒と埋り
孔子の全經日本〜此書吳初の書
り此書〜神功皇后之韓を〜
新ひ〜吳國〜神の代り經史の学
り文字の〜事あ〜上古の
りた〜
き〜
傳〜

常んやとあれがらうかきまきや九は國をば
君子不死の國と云なり孔子世の礼と云る事とな
けぬく九夷に於てんや宮ひる日本を九夷のま
つりなり一英國は此國と東夷は此國よりは
又波玉波を死蕃と云るまき一河と云の東夷南夷
西羌北狄なり南は北の種なりと云ふは
そのまき牧畜もはひのどと云るまき大の種なりは
いぬをまきくまきりまひの仁ありと云ふありか
まきく大ら此家なまきくまき孔子は時をまき
の事をまきたまひまきは秦の世に通一常んこと

あやしむまきくぬりまき此を皇天の命と云ふ
七十六年百十歳おまき

孝元天皇の孝靈の太子清母の細媛磯城縣主
の女なり丁亥のまき即位大倭の輕地境原のまき
まき九年乙未の年と云ふまきの秦はまき漢
まき此天皇をまきと云ふまき百十
七歳おまき

第九代開化天皇を孝元孝二の御子清母を鬱色
穗積乃臣と祖鬱色椎命の妹也甲申元年即位
大倭の表日率川の宮にありす天下を治め給ふ

る六十一年百十の歳にすしりくま

廿十代崇神天皇八崩化廿二の子清母ハ伊香色謎

姫初は孝元の妃大綜麻杵命の女なり甲申の年

即位大倭の儀謀孔瑁籙の宮りゆまは此は討神

代とゆもりの世を十つと年ハ百金にたりぬやう

屋く神威とねもさゆひく即位六年己丑の年

神代ハ鏡造る石敷此は神の初子

初めして鏡とす伴い鑄せし天目一箇ハ神の

初み瓜くく叙をたくむ大和ハ宇陀志郡りて

此は程とす伴いあくためくまく護身の團たまとく

同敷り安主を神代より此寶鏡およハ靈叙まへを皇

女豊鋤入い命りはちく大倭の皇継ハ色いろとす

とく初りい難と速すみくあくがく免くもく海くのくとく神宮

皇天名別くりくなくりくおく其く存く太神の教くあるく考く鋤

入命神跡と項戴くして西くのく孤くめくりく江くハくるく十年

の秋大倭命を小陸くりくつくりく武津川別命と東海

吉備津彦命を初造り丹波の屋く命と丹波りは

りく其く也くとくりく中く綾くとく信くくく将軍とす初ては角叔父

武垣安彦命初造りくとくぬくるくんくはくりく常く造くハ將軍

おとくりくめくくく先く追く討くしくはく冬く十月く將軍く發く落くす

を以て終ふ是より曾大神のあまもく三下曾乃宗
庶ふまゝに下も此を曾天下に以て終ふる九十九年
百四十歳終す

曾十六代景行天皇ハ垂仁尊ノ孫子神母ヲ葉別媛丹
波道主王のむすめなり辛未の年即位大倭の纏向
の日代ノ宮リ神皇正統記曰く此の世に
く貢をくまへ八月リ天皇筑紫ノ幸してあまの
征し終ふ十二年夏こころを平らぐ高麗文
王十九年秋筑紫より遷たまふ二十七年秋熊
襲又反ひく島境をたぐり宮子小碓を神年

十六代もなかくよと雄略の氣まゝして容貌魁偉身の
長一丈力能鼎をあげ終くは熊襲征く免
終ふ冬十月リむすぶかの國リつらり奇謀を
以て泉師取石鹿文と云ふの汝殺し終ふ泉師が
め有りて日本民と名法ありたりあまもく餘黨を
平らぐ終て之り終つてにりてあまもくの忍神をこゝろ
し終二十八夏かたり終たり天皇主功とほめて免
くも終あまの流子よあまもくの甲午年夏東夷にわく
うむむく過境ありりかるとは又日本民の皇子
城つらり吉備の武彦大伴の武日と名これ將軍と

あゝあひせへしめ行く十月に枉道よまじりして伴勢の
神宮にまゝそと大倭姫命やまとひめのみことは内なる中給ふ波命神
劍つるぎをさばらめて津つしんてかたむかへるそとそとくしん給ひ
駿河しづなよりいそより賊徒野あやむしより大狐おほきつね付く害あやなるん
とほりりりり大のいさかひまぬりもめさるるそとそとを
る藜雲あしぐもの劍つるぎをけりぬあそくたりののそとをたれそと
是にたりくみみあそくためく草薙くさなぎ此劍つるぎと云又火うちを
とく火をいそいでむひ火とつめて賊徒と焼やきあそ
きまはま是より船ふねを乗のりり上総かみづみよりいそり播磨はりまと
陰國かげのくにより高見たかみの國くに そのこゝろよりいそりおとくを蝦夷あまひすと

年々米給ふよりて常陸ひたちと魚甲うなぎ蝦えびり越こ又武甕たけのみか上野
と經つらく碓白坂うすしろさかよりいそりそとくを播磨はりまとよひり毒どく入いれ
のむ給ふ上総かみづみは時風ときかぜ吹あそりり東南とうなんの方かたとをさして
赤あか孺なな者ま邪やとの給ひいそり山東しやんとの諸國しよこくをあげはとくい
たりそとそと是より道みち坂さかから吉備ききの武甕たけのみかと越こ此こゝはまき
とて不順ふじゆんの者ものとなつそとあそりめ給ふそとは信濃しんぬより尾
張おぢり出いでふかの國くにより宮みや簀す媛ひめと云女むすめの尾張おぢの福ふく姫ひめ乃
宿禰すくね清きよ妹いもなり此こゝ女むすめはけりて淹留えんりゅうり行いひあつそと
十じゆ尊すんの心こゝろより葛くわ神かみあるそとそとそとそとそとそとそとそと
乃の家いへよりそとそと徒たよりいそりまき山やま神かみ化けして小蛇こへびり

ありて浄道よきことなほしりき又あえてはひりり山
神毒丸とはもゆゆ浄道よきことなり伊勢よ
うはりゆふ能褒野と云ふゆゆ浄道よきことなり
なりゆゆ武彦命とて天皇の事なりと奏して
ゆよかき行ひぬ浄年二十なりと告ぎしゆゆ
氣ゆゆゆゆ限ゆ 群卿百寮ゆゆゆ伊勢國
能褒野ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ大倭
の國ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ又陵とゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
凌狐きたゆゆゆゆゆゆ白鳥又飛く天りのほりぬ依

この凌ありかの草薙の叙々宮箒媛あゆゆ尾張よ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
武内宿禰と棟梁の臣ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
國紙免ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
あづまゆゆゆゆゆゆ伊勢能褒の宮ゆゆゆゆ
秋伊勢より大倭ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
武内宿禰ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
貴十三代成務天皇八景行貴三の子浄母は坂入姫八
坂入皇子神子の女なり日本武尊日嗣とゆゆゆゆ
あり世伝ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

年即位近江の志賀に高穴穗の文よまし一泊して神武
より十二代を大倭の國よましりく系約天皇の志賀に高穴穗の文よましりく美
内宿禰を大臣とす是に初む十八年の長姪の仲足彦
言日本武尊をとく皇太子とす天下を拓きめ給ふ
六十二年百七十八年

才十四代才十五世仲哀天皇は日本武尊才二の子景行
の御孫なり清母を内道入姫重仁と名れ女あり大祖神
武と名す才十二代景行まくとわ代のまに継躰一孫ふ
日本武尊世孫と名く一孫ふ此天皇と太子とて申たり

ましりく一より代と世とわさるはく免たり是とらふ世
瓜本とある一なる一事也代と世とは帝の義差別なりあることわが
たのりあるより伝家書にもそのれをさしありあり
代は更の義と世は周礼の語は美記てふをせと云ありはて皇御とらひ
きりりく一は御をけ一夫す一泊一らる壬申の年即位
此は阿蘇祝衣又反乱して朝貢せし天皇軍をりして神
々征伐のため筑紫よりむらひ孫ふ皇后息長足姫
尊を越前小園前飯の神りまうとて推さより小海と
めりりて仍あひ行ぬらした神あるとく皇后をわたり
まきまらる是より死り寶の國あり打とちとて行人
蘇我を小園をらと又伊弉諾伊弉册のうらり一國をら

うたぎも終る志とていなるん有とて宮うもぐ
江の事なる江して檀日の宮に〜かよ江長門
りたぎあなふこふ穴之豊浦の宮〜天下を治先
行るの九年の午二歳〜

才十五代神功皇后之息長宿禰の女崩化天皇四世の
御孫なり息長足姫尊とて仲哀とて皇后とて
仲哀神の〜よ〜世に〜江ひ〜宮
后の〜御り〜七月ある〜別殿とて〜齋
も〜世に〜時嘉神とて〜も〜ま〜り
神〜と〜ゆ〜の道と教〜此神と表筒男

底筒男なるとてん名の江ひたる是は昔伊弉諾
日向の小戸の川橋原に〜み〜江ひ時化
生〜神なり〜折津の國住〜い
江〜神〜も〜かくて新羅百濟高麗
ケ國と三韓と云ハ新羅百濟高麗と云ハ三韓并韓と云ハ
新羅と云ハ百濟と云ハ高麗と云ハ三韓と云ハ
ひ〜海神〜江〜御船と〜み〜り
〜は思ひの〜か〜玉とた〜も〜江ひ神代り
年序久〜江〜か〜神威と〜江〜
江ひ〜石淵の御事〜海中に〜此の珠
を江〜り〜は〜り〜御り〜宮〜

意神天皇にまゝ海を津の戸行ひしより是を
祚中の三宮ともよみ皇後扶養たつみし辛丑の年より
天下とありを終ふ皇太后は養育やしんするより時
皇子乃実母の兄志能王諱敏とありてを世に
さんやゝもよみ皇太后は或内太后といはれ
己紀伊の皇太后とあり詔波に終ひて後
之れとなりてあり皇太后は終ひて後
太子とあり或内太后もも胡汝と捕縛しり大倭の
繁余稚振れ宮りすも是より之韓の國年
に神訓とありて此國よりは後なり鎮守は此

初より一は酒著相違しと國盛ることあり又
之後ありては後なりとあり倭國の女王造後
本朝より後漢書より元辛巳の年
漢の孝獻帝二年三年よりあり漢の代
十四代とあり時王莽とあり位とあり十四年あり
ふき後漢よりありて又十三代孝獻の代より漢を滅
しき此神代十九年をまた獻帝位とあり魏の文
帝に申しあり是より天下よりわきて魏蜀呉
とありて吳を東より國を造る日本は後とあり
はもはや吳は國より道とありて是よりわたり

さよふ又魏のふもと通せしと云ふ事ありとみたり年九
年乙酉とひひ年魏又滅く晋の代は仲りに去
蜀の國ハ三十年癸未より魏のためふちほれ矣ハ魏より
のちまてあつしう慈神十七年辛丑晉のたけりわろほる此皇居天下
治め給ふるの六十九年二百歳おまししと云

才十六代才十六世慈神と云ひ仲哀神の事神功
皇居をり胎中より天皇と云ふを與回と云ふと云は
あなる庚寅の年即位大倭は雅治老明の宮
まし海はは府百濟より博士と云ひ經史と云ふし海
太子以下是派言ひなきひみ此國より經史なる文
宗派と云ふちなる事ハ是と云はけりまらうと云ふ異朝の

一書は神日本を其の太仰ななりといふ事ありと云
あつしぬる事なりむり日本ハ之韓と同様なりと云
事の有し後事と桓表の沖代は魏をくらししなり
天地ひくなくは素戔嗚尊韓の地よりしりはな
れと云事あまといかすこれ國も神の苗裔をらん
あがらうと云ふことあまをさすこと者なりと云
さる事なりと地神の法未だもなれり代は
さる其の太仰はほふあつし韓震旦にさる
以本天皇の人れわくは國より歸化し秦の事
漢の事言條百濟の程をさるね蕃人の事と云

神皇正統記を以て源礼とて知らるる姓氏録と云ふを
ついでに記し置くと人民より知らるるの事なりと云
朝もも人のつまのしるはるる是等は昔の云出せる
事なる源漢書よりぞ世國のゆゑなりと云ふ事
符合したる事もあり又のゆゑ事とありや唐書も
日本の皇代記と神代より光孝の御代まであり
小のせごわりゆゑも世源時武内大臣筑紫をたごりんた
めり皮國りはるはらまゝありた力然とてつとすん
と源時時記とてと大臣の傳志根子と云ふありりか
かゝり大臣と似たり宗とていおつるるといふ大

臣の志びとて記すまゝとて科なきとてあきとめり
は兼上吉神靈のありとてはるはらまゝありり
ある末代いそはるはるはるはるはるはるはるはる
治め終るる四十一年百十兼ねりて兼欽明天皇
の御代よりけりとて神とてはるはるはるはるはる
はるはるはるはるの池と云ふはるはるはるはるはる
十六代饗田乃八幡尾也との記し置置置置置置置置
八幡と垂迹はるはるはるはるはるはるはるはるはる
まるとはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
竹ふはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる
託宣ありてはるはるはるはるはるはるはるはるはる

中流又神流のりて浄出家の家ありまやうとて授き
初精しんしやう一きく下流う家ありとて初初使をくは字依り
まひり又清和のし時大安寺に僧の教字依りし
きりし又靈告ありとて今の男山石清水いししみづうはりまじ
下流かみり今奉行奉も母幣はりと石清水ありとて一代一度
字依りあしと初使しんしやうときくまはるう者を縁ありとてより
はし時神依の神かみ旨ありまき大物おほものの神ありとて
天あまのあまよりよりとて半かみの神かみとて今いままくと幣はり
帛いととてまはる神かみ字あし餘坐あま也なりあるふ天照太神の宮
りなりとて二ふた不ふ宗廟しんじやうとて八幡とありとて

りなりなりとて浄事也八幡とて浄名じやうな法はう説せつ宣せんり得え
道みち来きたり不ふ動どう法性はうしやう樂がく八正道はつしやうだう空くう權ごん迹せき皆得みなえ解脫げだつ苦く衆生しゆじやう
故ゆゑ号なづ八幡大菩薩はつぱんたいたくさつとあり八正はつしやうと八内典はつないでんと正見しやうけん正剛しやうかう
正思しやうし惟ただ正ただ正業しやうごふ正命しやうめい正精しやうしやう進しん正定しやうぢやう惠ゑ乞きと八正はつしやう及およと
以もつ不ふ知しりなりとて正ただをただ進しん八身はつしんとてその法はうとて清きよ法はうとて業ごふ
り邪よこしまありとて内外うちけとて正ただなるなり法はう諸佛しよぶつ出世しゆしゆせ乃すなは本懐ほんくわい
とて神明の垂迹しんしやう也なり又乞きがためなるとて又八方はつぱうり
八色はつしき乃すなは幡はたとて法はうとて事ことあり密教みつぎやうのなるなり西さい方ぱう阿あ
弥み池ちの三昧さんまい邪よこしま形かたちありそのありや行教ぎやうぎやう和尙わしやう及およ弥み
陀だ三号さんごう形かたちありとて行ぎやうひり光明くわうみやう袈裟けさ法はう

とまうはくせましく、（？）の**取裁**して男山（？）の安置
中宮と称神明の本地といふの事一々たるぬた
と云ふは、（？）大菩薩の遺迹をむりしりありあき
うれば、（？）或は又青龍靈鷲山説
妙法苑（？）とて或は孫勒（？）なりとて大自在菩薩（？）
りとも説宣（？）一經の中にも、（？）此幡をさすは、（？）方
衆生と漸度と終ふ本誓よく、（？）思ひ入てば、（？）ま
づきよや天照太神と略正由（？）のそで沖心とて、（？）
神鏡と傳くまじく、（？）事此おありは、（？）終もあ
ゆりぬ又雄略と略正二年の冬十月に伊勢津神
宮の新嘗乃戸法り、（？）夜あましく、（？）の人の肉を、（？）
後神と物忌（？）とて、（？）まるとりしよ、（？）皇太神豊受
の太神倭姫命（？）からしく、（？）説宣（？）一經ひり、（？）人々
すかり、（？）天下の神物なり、（？）心津とや、（？）事此是神の
た、（？）初禱を、（？）冥々たる、（？）言り、（？）西皇（？）の
おと、（？）聖あり、（？）日平二年二月、（？）の、（？）説宣（？）一經ひ
しよ、（？）日月に別とあり、（？）志念とて、（？）まるとり、（？）正直は
頂（？）を、（？）そと、（？）まるとり、（？）二和宗廟の沖心とて、（？）ん
と思ひ、（？）後正由とて、（？）まるとり、（？）大方天地のあ、（？）ん
の、（？）とある人、（？）陰陽法とて、（？）まるとり、（？）不正あり、（？）て、（？）ん

身よりすあをけらるは世間を神國をさし及神道よきか
ひくま一日と日月をいそぐまきまき一夫いそれなり倭姫
の人よりそく流ひたる黒き公かくして丹心ととありて
清潔く耕植たるの物成たるよりいそぐ右の物成たるより
はまはしとくたをたきし一石をたきし一たりめたり有
めく流りも新事たごふをくして太神りしはく
まの道元を本とあらなるりこれん謀る君りは神
はく國とたき先人ととて一んこととくかたしとて
たけく信りありのりも四りゆるま西あまのあがきたあ
やまる本とあら周易り一書は紙に綴る堅氷りむらとらふ

こと瓜孔子稱しとく宣く積善の家は餘慶ありと不善の
家は餘殃ありと君と親一父と教をりも一期一夕の
加りありと此といひり毫釐も君とゆるをりする心を
きざるとそのを必礼はこれに故帯と親とたけらうらふ
ちるがけらう者とのいそぐとて一賊中をる此ゆへに右の
聖人道を漢史にはあるべしとすこれかまいたるありと
とことまも但て未だまされむと深とありとめされし事に
のぞくそくえきふありとまらりしと深とまはしと一物を
あくりしけらるはありと虚空の中よりまらるるなりと
天地あり君臣ありと善悪は形ひれむきのおととあり

しが欲をさく人としりたるはたはては境より對出る
 ころ鏡の物と思はるるこゝ明とて海をわたりんとま
 こよのふたはまにや代とてさかるといふはとてやむ
 今より天竺より今日取給とする理ありとてたあり
 ぞ君もはと神とてさるるはつはつと冥れ知ん
 平よりりし神の本物とてさるるといふは居せんといふ
 四り一邪なるといふと思はるる
 才十七代仁徳天皇は惠神才一の子沖母を仲非令女
 百珠入彦皇太子系約の沖子乃女なり大鷦鷯あかこぎをとりて惠神の
 沖母弟道稚皇太子とて名を寂末此沖子にさすといふ

とう流るるはひと太子とてそんれなり
 兄此沖子をさるる名はひ終はるといふと世を宮ひりりうち
 ぐひり終ひりよるとて惠神收まるとして荒道稚と太子
 とて世を以捕依よとん定め終ひるる惠神とてまはし
 申しな沖兄なり太子とてかりんをさるれと世を
 けりりて太子とてつ瓜一なりとて世を流せるといふは家よ
 太子と位と名りゆはり終ひるるといふは流るる年
 ころをさるるはひりゆはりて位とむとては太子は
 心城の宮治よまはるる折津の難波あふたりまはるる國は
 沖つぎ物とてありとて流るるはるるもさるるて民の怨と

あまのりしり太子を居りしを世にひぬるとも治るなげふ
治るしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
國の年即位極津國難波宮にの宮をまつる日嗣と
うち治るしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
とままをまつるしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
治りて二年の御調をまつらぬる殿のありて見
行へしはまつるしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
るまの橋のあり民治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
ゆりし治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
かまてくぬ治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
ひひと全うす帝をまつるしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
大夫治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
御政をまつるしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
丹十九代履中天宮ハ仁徳の太子河内磐余姫命高城
磐津彦の女をり庚子年即位又大倭の磐余稚振
の宮をまつるしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
丹十六年六十七歳おつるしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ
丹十九代及正天皇を仁徳丹之子履中曰母の丹也丙午
の年即位河内の丹は宋羅乃宮をりしり治るなりしを世にひぬるとも治るなげふ

治め終るる六年六十歳おすしりくま

第二十代允恭天皇ハ仁徳孝四の子履中及正母の才
なり壬子の年即位大倭乃遠明日香の宮にすし内を新
時よりは之韓の古淵年くはらりくさるる小足とほま
帝より終るるありありと多ん八年己未ありあきま利し年
とありは此晉の終びく南北の朝とれ家宋并梁陳あひた
おとくたふる是と南朝と云ほ魏小并は周つぎくしり
かまらりくは北朝とらふ百七十余年とくしひてをりた
はと皇天下と治めたるふり年之末八十歳おすしりくま

乙酉十月十八日字之中村直道

神皇正統記卷之三目錄

- 第二十一 安康
- 第二十二 雄略
- 第二十三 清寧
- 第二十四 額宗
- 第二十五 仁賢
- 第二十六 武烈
- 第二十七 純射
- 第二十八 安閑
- 第二十九 宣化

第三十
第三十一
第三十二
第三十三
第三十四
第三十五
第三十六
第三十七
第三十八
第三十九

欽明
敏達
用明
崇峻
推古
舒明
皇極
孝德
新明
天智

第四十
第四十一
第四十二
第四十三
第四十四
第四十五
第四十六
第四十七
第四十八
第四十九

文武
持統
文武
元明
元正
聖武
孝德
廢帝
稱德
光仁

目錄才之之終

神皇正統記卷之三

元二下代安康天皇ハ允恭弟二の子神母を忠坂大内
 惟稚野毛二汎乃皇子神子此女を甲午乃年即位
 大倭の元徳此宮より南一また大草香皇子神子仁徳と云の
 ちくま妻以と云く皇居ともて後皇子の子眉禰乃王
 おさなかくて母もあさくひく宮中よまへ一なる天皇高
 榊の上り醉所行ひあふ候うらみもゆ一あ病して
 大臣葛城乃圓の家よりはる鏡をぬきて皇天下と注り
 なる事三年中六歳おすしくま
 元二下代雄略天皇ハ允恭弟五の子安康母神母なり

くはくせはひひるるのりむむりー豊鋤入姫命崇神ノ御女天照太神と項裁ちやうさいく丹波の吉佐よさ比宮ひみやくうゆり注しゆ公こう
くこの神ありくまきりく一取ひととまかりくまは四軍ありく
天照太神ハ又大倭おほやまとくうはくせはひひくを道みち命のみことと云人
りき中なかつなり直ただく世宮よみやくゆり神かみ殿のと云のく肉宮にくみやと
毎まい日にちりをくりだくまつとく神かみ皇みかど年中なかつより外宮そとみやり
神かみ饌け殿のと云く内宮うちみやの成なり也なり一ひと而なりくまはつはをん多おほう
此こゝ事ことにほりて神かみ饌けの神かみと云祝いのちあまき神かみ食け也なり注しゆ氣け
このあまあり陰陽いんやう元初もとり神かみ氣けをまは天あめ枝えだ霧きり國くに枝えだ
霧きりと云神かみ氣けあまは從したがひの祝いのちと正ただくまはつと云く線せん

ま相あひ敵たかりく南みなみくまは神かみ饌けの神かみと云祝いのちを用もちかへは
はと皇みかど天下あめと注しゆゆは平へい二十二年にじゅうにねん八十歳はちじゅうさいおき
才さい二十二代にじゅうにだい清寧せいねい天皇てんかうハ雄略ゆうりやく才さい之の子こ神かみ母ははハ韓媛かんわん葛かつら
城しろの圓ま大おほ臣おみ比ひ女めなり庚申こうしんの年とし即位きせき大倭おほやまとの磐余いわあま癸みづ
栗くり乃の宮みやりまは南みなみと誕生たんにんのく先まづ白坂しろさかりたり
常とこ道みちハあつぐの王おう宮みやと云ト常とこ家いへ神かみ子こをくく皇みかど
胤みこと乃のくはぬ金かねと事こととあげき注しゆひく國くにく物もの使つかとけり
りて皇胤みことと云く注しゆ市いち色いろ押おし羽は皇みかど子こ雄略ゆうりやくくあ病やまさ道みち
注しゆひく時とき令しむ女め一人ひとり皇子みまろ二人ふたりまは丹波たんぱの國くにりかく
と注しゆひくると云とあまき神かみ氣けりてやうかみ行ゆきひり

百代よりまほしく弘ま秋よとこそいふまじく不徳の子孫
あつたま宗と滅わらばとく先蹤せんそうまねりしは上代の聖賢
を子なきとも意いをきりしは河まきと詠よりあつたまは
形かたちのそと一堯の子丹朱不肖ふせうなりしを舜しんよき
舜の子商均又おせうにけし一夏の禹うよゆづりしを
しし一堯舜よりふるくはたれと下と私ひりしは
まやあつても子孫はほくふるくはたれしは禹うのほり
桀せつ暴虐ぼうにゃくなりし一國とうをひ殷いんの湯たう聖せい徳とくありし
くや紂ちゆう時ときを道みちしして永くはあびしを天竺てんぢくよと佛ぶつ滅めつ
度百年のほ阿育あいうと云まあり姓うぢを孔くわん崔さい氏し王位わうゐはほし

日鐵輪につてんりん飛と浮うつと竹輪ちやくりんの威徳ゐとくをけし洞浮提どうぶだいと統と
領りやうをありし一諸しよの鬼神くわんじんと云くくし正法しやうぽうをいし
天下てんかはたれしは仏ぶつ理りし通とて之賢けんとあつたまは
塔たつと云く舍利せりと安あんまは九十六億千の金銀きんぎんをそく
切徳きやうとくり施せし人にんはつたまは三世さんぜの孫そん佛ぶつ沙密さみつ多羅たら王わうは
忍にん臣しんのますめはほり祖そ王わうはまきしと一塔たつ婆ばと彼か壞わいせん
云い忍にん念ねんと云し一之病しやうくの寺てらはありしは兵へい兵へい教きやう容ようと
阿育あいう王わうはあつたまは一雞けい雀さく寺てらは佛ぶつ牙が齒し志し塔たつ婆ばにありし
とせしに護ご法ぽう神しんいしと云く一大山たいざん化けして王わう及ぎひ
は兵へいの兵へいはたれし一ころを是こゝより孔くわん崔さいの種しゆ絶たつまはあつたまは

先祖たる神代も不徳の子孫宗廟のまひりてはをん
事々々々ひなり此天宮より天孫にあらたまふも九年十
八歳おきしなり

才二十七代才二十世位神天皇の皇神の世乃沖津あり
皇神才人の神子集總別乃皇子才乃子大迹王其子私
賀王も子彦王も人王なり此子男大迹王なりは此天皇より
才一乃也沖津を振振皇に七世の位孫たり越前の國より
才よりかり武烈たるは跡ふとく皇胤をふりて六群
はらまへなけきと國々にわたりあり又皇胤をもとと免
なりなれば此天皇王者此天皇よりして清龍のつと

はひ世よりあり行ひあるなりや群に御代にひたりとそ
まはりたりとびとと御儀にひたりととととと即
行ふ今年己丑の年也 武烈たるは行ひたるは 大倭の磐余玉
祖の宮より神よりとて 仁賢の神女平白者皇女と皇胤
とと即位し行ひなりゆととに賢王もまひりて
皇神は子がたきとと行ひなりとと 仁德賢王も
侍りたりとと沖津もたきととに集總別乃神たりと
世にたるととを行ふなりとととととととと
仁神とは大鷲鷲乃也 仁神の神代より 皇代たる
もとと 鷲鷲は小鳥なり集八大鳥なりとととと

行ふるありき集の名はありてと名づる世はちしは
ひらりやと病うううとくはまありありと名づる
はくさうとほくくくおのくまは事やまをこととあ
はくう天命也といふも九意れといふはさうありて此
と名づればらひひし事う思ひの初なる御連と
え侍ら但皇流をいぬるも時群臣をうひととあ
とて下流りて賢名りあるとく王位と傳へたり天照
太神の活本まいたくをえんて皇統りま今まはらん
時を賢儲王たりともいひてかむるはなりゆふ厚き
皇流をいぬるもいひては賢りて天日嗣りてはれ

り行ひむの別又天の御るとありては皇をいふ皇國中
興の祖宗とありてたかくつるはさうとありて下流り
免たまふ事二十六年辛二氣おきくき
才二十八代安閑天皇は純睦の太子御母を日子姫尾張
の草香連の女なり甲寅の年即位大倭の勾金乃宮
りまきゆとて下流り免たまふ事二年辛二氣おき
くき
才二十九代宣化天皇は純神才二の子安閑同母は等なり
丙辰の年即位大倭は拾隈廬入野の宮りまきゆと
天下に治をためたまふ事七年辛二氣おきくき

第廿十代二十一世欽明天皇ハ姓野村ノ孫母皇居
年白香皇女仁實天皇此女ナリ又々一ノ一ノ一
此天皇の御世皇女ナル母方亦も仁徳此ナリ
にす一内セハ程も遺法はきりてかくしと
注ひなありや庚申のころ即位大倭の破城鴻の令
刺乃宮まき一丁七十二年壬申十月一石海國ナリ
佛法僧と注一ナリ此國此傳來のころは
此皇滅後一千十六年ハある年一注ありの好漢
乃明帝永年十年一佛法も思くは國ナリ注
これより此壬申の年まで四百二十年も流こ

ハ朝乃母此文宣帝即位二年南朝の梁此文帝と即
位三年ナリ簡文帝乃父とは武帝より大佛法と
あがめ此皇代のころは武帝同代ナリ
此法も一めく信也一時期他皇の神とあり
此國の神也一をふつ一群は一凍
小なる一をて一も一此國一之實力
事ハ何一も一又一に一あがめ
あり一を注一之實と感せられ
こそ群臣の注一も一法と
天皇此皇也一あがめ一弘正世一天皇の

月蓋長者所たごまたり一海施之言此金像と傳はく
渡しなり宿る難波の堀にりもくろむるも善光
と云者るたてて下流りて信濃の国に安んじりま今此
善光寺是なり比所府八幡大菩薩もくもも坐落し下じ
まくと三宮天む紙おあたふる二十年中氣持しりくま
才二十一代才二十二世敏達天皇を欽明才二の子神母は
石媛皇女宣化天皇の女なり壬辰の年即位大倭磐
余譯語回の宮へ侍ります二年癸巳の年天皇の
治養豊日皇子此妃神玉成誕生に既戸皇子とまはし
下れ生るはひりもり高くの奇瑞ありまも人

まもす一海は神母成ふるをけひり二葉まも東方
るむもく南無佛とてひりきさひり一の舍利あり
又弘法流布のためは推化して行るるまも
佛舍利今に大倭の法隆寺にありてありて天皇を
以治めたりよの十一年壬午一葉まもり
才三十二代用明天皇の欽明才二の子神母は陰地娘
敏稲目大臣の女なり豊日皇子と既戸皇子の女なり
まも丙午の年即位大倭比地多列樹の宮へ侍り
弘法どつがむるも國も流布せんり一にひりまも可利
の守屋大連もくありて終る叛逆りておびぬ既戸

皇子獲家の大后とを二ありて誅戮せしむ則佛法
とむりありねなりりて皇天下に成り治るる二年
甲子一采かきしりて

弟之千三代崇峻天皇を欽明力十六の子津母は小姉
君娘あまを福月の大后に女をり成申年即位大倭の
倉橋に宮りてまゝ南を天皇標死の相とて治るは
之由をくまるとして厩戸皇子養へ給ひりて天下と
治り行るる六年七十二歳おきしりてあまの人の外
男獲家馬子の大臣と法中ありてまゝ如の大后にた
りしりありて行るるをり

弟之千四代推古天皇は欽明の津女用明同母の姉なり
沖食炊屋敷とてまゝ敏達天皇皇后とて治る仁法は皇后の妹をれと
ありて崇峻とて行ひりて癸巳の年即位大倭の
磯田の宮りてゆりてまゝむりて神功皇后六年餘年
天下に治り治ひりてまゝも攝政とてりて天皇とてあり
たてて下治りてまゝも此帝を正位とて治り治ひりて
了して厩戸皇子は皇太子とて万機の政とて治るは志を
攝政とてりて太子の監國とてりてまゝも治り治ひり
らるる事なり是をひりて天下と治り治ひり
太子聖徳とてりて天下の人ありてまゝも日治りてはく

こし雲のこしこしを未嘗とてまじし時遂に守成と
誅し終ひしより佛法をめぐり流布しますし
政をあらせ行へば之を賢とてやまひ正法とて治め終ふ
事世にほこりけり又神意自在とて神を
抑へ終ひしは法教とて名をいひて誨し終ひしは
天より花をゆりし放光動地の瑞ありきて天宮祥光た
うとてあが免たるとまじし事佛のあはれとて伽藍とまじ
所をめぐり字千金ありかたより又世國よむむしより人
をいひて法念をいふとていふまじし十二年甲子とて
名を冠位といふとてまじし事冠のたれりともて上下と

定むる小十二階あり十七年己巳憲法十七を案法はりて
奏し終ふ内外典のゆりた道をいふとてむねとて
まやうにいふはけり終ふとて天宮を治めいひて天下
に施すせしめ終ひて世あらむとて治めいひて隋の
世なり南北朝をいふとて南は正統とて北は戎狄なり
とていふとて中国とていふとて南朝を北朝
の存周といひしより申つりいひけりなり南朝乃陳と
うらたのうらまて一統の世とていふとて此を定れ元年癸丑
文帝一統乃成元年なり十三年乙丑楊帝の即位
元年よりいふとて後國よむとていふとてはとれりなり

へん過しり隋帝の書り皇帝恭問禮意とあり
 否瓜也ともありの天子は諸侯にけりて礼儀な
 已とく群臣あやしりあると天子のたふひはるき皇
 氏家の事もよくもちかへりてはあふとく延敷とて
 うるはるきありて 饗祿をけりて 儀とくしりて
 造隋大使とてなん名けりて 二十七年己卯のし
 隋滅て唐のせりしうけりて二十九辛亥卯太子
 くまの経沖年甲午天皇御そとめたりてしりてそ
 下の人がかりしりてしりて父母より喪をぬがたりし

皇位ともはふまゝゆきへりてかとも推化のちのなれ
 し定とく故有らんせりしり 沖諱とて聖法と名付なる
 此天皇ともは法孫ありて十六年七十年歳おまりし
 也乙未丙辰代乙二十世舒明天皇は志坂大兄皇子の
 子敏達の子孫あり沖母とて糠手姫皇女也敏達の
 吉女なり推古天皇は聖德太子は沖子なり侍りてしりて
 ねけりしりてなるもやゆきとくゆきしりて 敏達乃沖孫
 欽明は嫡曾孫なりしりてゆき又太子は病も所けりし
 時で皇太子は使しりてしりてしりて天下の
 おと成太子のしりてしりてしりて己丑の年即位

大倭乃高市北郡思本誌宮りまし下此即位は
其之跡この唐元太宗のまじり貞觀三年りあま
日と下と治め行ふり十年四十九歳なりし
中十六代皇極天皇の弟淳仁天皇女思坂大皇子の孫
敏達之曾孫沖母は吉備姫乃女とや舒明天皇
り辰と結ふ智天武の沖母なり舒明かましまし
皇子おされおたりす壬寅の年即位大倭の
明日香河原の宮りゆり此時り蘇我蝦夷乃
大臣の子大兄をりむよま子入唐朝權をかりあ
皇家成なるがゆりま家と宮門と云は子

成王の子をかん云らる上をりり國元重寶みな私宅
りるこびをりり中よ入鹿悖逆の心を
聖德太子の沖母乃科なりましり
なるあま皇子中大兄は舒明の沖母此天皇沖和
生りり中臣鎌足連と云人このをりり入唐を
おろしは又蝦夷も家大をばあまらるる國記の
重寶をりれ滅りり蘇我の門久く權をりり
あまも積惡のゆりりやれ滅ひぬ山田石川丸と云
り皇子の心をりり滅りり此鎌足の大
臣天見命三十一世の孫なりり天孫ありり

はひし時禰神北 上首より今時天皇天照太神の初と
う宗と補佐の神とすもふは中長ともふと二神
の神中少と神の神をやらざる者中長ひたるゆとを
も孫天種子命神武の志代も祭の成はさる上首と
神と宮と一なりまじりたる祭とつをせざるを即政
としまると也 政のはれ訓 是後天照太神とめく伊勢の
國より志のまらましまし時種子命の志急大廉命祭宮
よりなるもとく經と大臣乃父小徳冠清食子ともも宮
てはろりより經とよりいざらるとく大勳ときく世も窮せ
るまじりなるもとく祖業成をこし先烈とあらやうとすらる

心止事なり且は神代よりの餘風なき事なるも
とくそれゆへに徳治のほり内長より任じ大臣と稱し
大織冠となる 正三位 又中長とありたれど藤原の姓
と行なり 内長より任じしゆはるは古代よりい 是も
はるも三年ありとく日母は清和天皇輕皇子ゆつり行ふ
神名と皇祖母とすともさする
第百七十七代孝徳天皇ハ皇孫日母の身なり己巳年
即位攝津國長柄豊満乃宮りましまし世古時とありて
大臣と大臣よりいざらる大臣を成勢の時時武内宿禰はじ
きく是より後世仲哀乃代り又大連の官をとれる大臣

大連をくひく改とあきり常川村大連とやめてた者の
大連をも又二省百官にあらはるる中は鍾と内は
をく改ふ天下と治先終ふ年十年五十九歳終りし
齊宗八代明神天皇の重祚なり主祚と云ふは
本朝をさしりしをさしりしは殷の太甲の時
なりしは伊尹を相宮にあらはれて二年改を
さしりしは帝位をさしりしは太甲
あやまちとゆへに法をたてしりしは太甲
晉の世に桓と云ふ者安帝の位と云ふは十日
ありしは義兵のためあらはるる安帝位なり

終ふ唐の世となりて則天皇の世に終りしは
生れ子なりしは中宗と云ふは盧陵王と云ふは
法子豫王と云ふは中宗と云ふは豫王と云ふは
はりし中宗位なりしは唐の祚をさしりしは豫王と云ふは
祚ありしは齊宗と云ふは齊宗と云ふは齊宗と云ふは
二代りしは中宗齊宗と云ふは齊宗と云ふは齊宗と云ふは
皇極の重祚と明神天皇の重祚と云ふは齊宗と云ふは
と号す天朝なりしは齊宗と云ふは齊宗と云ふは齊宗と云ふは
先帝の世に終りしは齊宗と云ふは齊宗と云ふは齊宗と云ふは
と云ふは齊宗の世に終りしは齊宗と云ふは齊宗と云ふは齊宗と云ふは

沖世を之為ありの唐の高宗の時ありありと
とせありありとて救乃兵をりうも
太子はくまきくむる勢はふりまどく之韓つあり
唐の属する軍をくまぬまは之韓より之
ある下ををりたり皇太子や中元皇太子の
御事なり孝法の御代より太子より之は府の
を御やるとをり天皇太子は治の御あり七千六年
かきしり

中元十九代中元世天智天皇の御事
天皇をり壬戌の年即位近江の國大津に宮あり

また即位元年八月御中元天皇は
又藤原朝後の姓は行ふむの天勳と
は是は胡蝶をくまむ先は村と
太子なり病のありて御事
と此は天皇中元皇の御事
あるはくまきくむる勢はふりまどく之韓つあり
は是より下と治の御あり十年の御事
中元十代天皇天皇は天智天皇の御事
大倭よりまきくむる勢はふりまどく之韓つあり
は太子はくまきくむる勢はふりまどく之韓つあり

告^つ一^し世^せ人^{にん}ありとけし^し門^{かど}の^し津^つ意^いの^かひ^ひま^まあ^あ
り^りあ^あん^ん子^この^ち位^ゐと^とり^りあ^あら^らう^うき^きく^く天^{てん}智^ち津^つ子^こ
太^{たい}政^{せい}大^{だい}臣^{しん}大^{だい}友^{ゆう}の^ち宮^{みや}子^こり^り申^{まを}け^けり^りて^て芳^{ほう}野^のの^ち宮^{みや}入^いた^たま^まふ
と^と智^ちか^かく^く進^{しん}歩^ぽひ^ひく^くの^ちあ^あ大^{だい}友^{ゆう}れ^れ宮^{みや}子^こ程^{ほど}あ^あや^やか^かま^まさ^さあ^ある
と^と軍^{ぐん}と^とり^りて^て芳^{ほう}野^のと^とち^ちそ^そり^りん^んと^とう^うけ^けり^り進^{しん}歩^ぽひ^ひく^く
と^と宮^{みや}ひ^ひそ^そう^うり^り奇^き野^の紙^し出^で伴^{ばん}矯^{きょう}り^りあ^あく^く飯^い言^{げん}れ^れ飲^いり^り
印^{いん}り^りて^て太^{たい}神^{しん}宮^{みや}と^と遠^{とほ}り^り拜^をり^りく^く義^ぎ津^つへ^へり^りて^て東^{とう}
國^{こく}の^ち軍^{ぐん}と^とり^りて^て宮^{みや}子^こ高^{たか}市^{いち}ま^まの^ちり^りあ^あひ^ひく^くと^と大^{だい}將^{しょう}軍^{ぐん}と^と
あ^あて^て義^ぎ津^つの^ち不^ふ破^ぱの^ち突^つ紙^しま^まの^ちし^しめ^め天^{てん}宮^{みや}を^を尾^お津^つの^ち國^{こく}
と^とぞ^ぞあ^あく^く進^{しん}歩^ぽひ^ひく^く國^{こく}と^とみ^みれ^れあ^あく^くひ^ひや^やく^くハ^ハ不^ふ破^ぱの

國の軍りりうちを破れり勢あまはるそと合戦あり
皇子此軍やあましく皇子は病を患ひぬ大臣は下武を
誅りや一戒を流せり於軍はあましくひやあましく
あれく^くり^りあ^あま^ましく^くま^まあ^あく^くあ^あり^りる^る壬^{にん}申^{しん}の^ち年^{ねん}即位^{ごう}
大^{だい}和^わの^ち赤^{あか}毛^け津^つ津^つ原^{はら}は^はま^まと^と南^{なん}を^を朝^{てう}廷^{てい}の^ち法^{ぽう}度^どは
わ^わく^く定^{さだ}ま^まし^した^たり^り上^{じやう}下^げう^うあ^あり^りぬ^ぬり^りの^ち歌^{うた}中^{なかつ}を^をき^きる^る
も^も津^つ津^つ河^かを^をり^りて^てま^まる^る天^{てん}下^げを^を治^ちめ^めり^り給^{たま}ふ^ふり^り十^{じゅう}六^{ろく}年^{ねん}
七^{しち}十^{じゅう}三^{さん}年^{ねん}來^{きた}れ^れま^ます^すり^りく^く一^{いち}と^とい^いふ^ふ

第四十一代持統天皇より智の津女なり津母を越
智娘藤原の山田石川丸の大臣に女なりて武天皇太子

り由りくくより妃くはるる宮后くは皇子草
壁かつくまきくは宮后みのそくはるる成子のじ
たり庚寅かうの表正月一日即位大和の藤原の宮りま
由よき本後ほんごの皇子を太子と立給く世はまはくは給ま
依よくもゆき後ごに孫そん皇太子とて文武よりはます前まへの
右子みぎこはけり追号おいかうあるとく長恩ちやうおんの天皇とりては天皇
天皇はねれ給まはるる十年位と太子より申まをはりて太上天皇
と申まをす太上天皇とていふは異朝いさう漢かんの高祖かうそ
父と大元たいげんと云る号ごうあるとく太上天皇と号はるるは魏ぎの
顯祖けんそ唐たうの玄宗けんげん曆宗りきそう也本朝ほんてうもむくも例れいなり

皇孫天皇位との建給ひと皇祖母の号もまはるる
りは太上天皇は号の御ごありは千八百餘年くは
第九十二代文武天皇は景行けいこうの太子武甕槌の子武甕むすねの嫡
孫そんなり神母かみは所あ用いの皇女と智ち神かみ女めあり
のく即位たつ後ご蘇我の宮りまは此神時唐園しんときたうえんの
礼れいをくはるるくまはるるのたけり文武官の衣服いふくはまはるる
定さだめられぬ又即位六年辛かの丑うしと始りて年号ありは大
寶たからくはるる是よりけきたる孝徳の代り大化白雉たいけい天智
の神時白鳳しんときひやくほう天武の代り末代まつだい末代まつだい末代まつだい末代まつだい末代まつだい
くはるる大寶たからたりはるるはるる依よて大元たいげん

と年号は初とあるなり又皇子は親王とのふと此
御時より一々家亦藤原の内大臣鎮定の子不仁等乃
大臣執政の臣とて律令をど紙とてひ定むるも或
藤原の氏此大臣よりいよいよ盛りたり曰人の子
たりき是は四門とて一門を武智丸の大臣は流と南
家とて二門を春議中務の大將房前なりなり是は家
いふ今の執政大臣乃ひさるるき藤原の人とて此
なる一門を式部に宇合のなり此式部とて一門を
左大臣太夫麻呂の流とて京家とていひ一門ありきはたり
南家式部と儒流として今よりお徳とていふも唯小

家の一姫名もて房前大御人よことてなる張海とてたじ
ちめ又不仁等の大位を降り淡海とてなり與
禰寺と建立と此等はは大織冠の建立とて山城の山
科と有とては大臣平城とていへる依て山科寺も
中も降りて玄明とて僧唐へもつとて法相宗とて
此寺よりいひぬれより氏の神春日神も降り此
宗は擁護とては平景とてひり日神は天兒を祀とては社は内
祇園景雲年中のりなりとてあつはは空は空のりなり又春日の平人
乃中夜常陸の藤原神也二ハト迄の香苑の神三ハ平景四ハ藤原神と
中も降りて藤原の氏の神とて此て皇天下に成たると見えし事
三の神也まはるるなり
十七年二十六年

第百廿六代元明天皇の天智天皇の女持統天皇の妹
母を藤原媛也も山内河丸の大臣の女也藤原太子の
妃文武の御母也
改元元年庚戌もめく大倭志平城の宮を教とら
ためくおつめくも六代おとく教とあつた女創を山内
御名りよびまもく下流り天智天皇藤原の宮
まもく文武もめくあつたもめくおつた元明天皇
平城より傳りまもく又七代おとくももく天
下を治るもめく七年禰位あつたもく太上天皇も
あつたもめく

第百廿七代元正天皇の御孫太子は御女清母は元明天
皇文武の母の姉をり乙卯の年正月に御政九月
交禰を此日御後十月に改元平城の宮を治りまもく
此時百官もももくも六代おとくももく天下を治り
治るも九年禰位は二十年六月に御まもくも
也百廿六代を武天皇の文武の太子御母は皇夫人藤
原の宮子淡海公不活等此大臣のむもめく豊橋彦等も
相ももく御しに治るも元明元正先後り居るも
甲子の年即位改元平城の宮を治りまもくも此代大
佛はとあつたも先代りあつた東大寺に建置し

金洞十六太のやけと法々々又法園々國分寺々々
少分厄吉候々々國土安徳乃たり又法苑寂滅与初の理と
漢々々又初々々の言他他金をり且於て南天竺の
波羅の僧正慧苑林邑乃佛指唐の鑑真和尚是なり
去云法祖師中々法善長家也再り然り
密林のまゝ熱せどとく物ゆりそとて世園も行
基菩薩朗亦僧正をく權化の人なり天竺波羅の僧正
乃基朗亦と云は口智とそり傳へる此許時大宰ヶ氣
藤原廣継と云人武阿の實誅叛のきこく有と巡討せり
玄勝佛正の孫と云まうともいなり乃禱乃たぬ作現れ神宮り
依て然とる今の松浦の神事なり

初より金あるもいなり國の司法王費らとく三位の
叙も佛法繁昌の感念なりとて天下と法ゆゆあり
二十五年乙位と沛女高野始乃宮女り申治りて太
上を皇と戸なり此家せき勢なり夫天皇お家のじ
りなりひりて天武天皇の位とのごとく沛りて
此のりていとも治せしめりては事也と皇居光昭は
おをりて此家せき勢なり此天皇や十六代ありとて
第六十六代孝德天皇ハ聖武の御子高母は皇居光

明子淡海公石法寺の大はたむしめをり聖武の皇子女績
親王世孫とあくくは男をまき下りて依りて世皇
女立給ひまよむのこし即位政元平城宮り南ま
ま下と治めたまふ事十年大炊王公貴子とて皇太
子と即位とゆはくすく太上天皇やもて出家せむ坊給
ひく平城の御宮りかんまきしりくは給
第百十七代淡路廢帝一和合人親王れり天武の御孫
御母を上総久高麻の老が女をり合人親王と愛ふは中
り治身の女もゆりやまもや知太政官奉りて云滅と
こはるは朝勢と捕り給ひきり日本紀に此親王

初とゆくはくひ給ふ給り追号ありて盡敬天皇
と戸孝徳天皇御子まゆはく赤御兄貴色なるは
けは廢帝と治子にり世治り終り但年号なきも
あきまめくまを女帝の治まをらりてや成成の年
即位天下と治め給ふるは六年事とて淡海の國り
うらまき世給ひまよむ十三年あきまきしりくは
孝元十八代稱徳天皇は孝徳の重祚也庚戌の年正月
一日更り即位同七日政元太上天皇ひそくに坂原の武
智丸の大はたむしめをり子押衛をまきたまひま大伴時
高麻呂とあり正一位りたまはるはあきまきしりくは

後原より二宗改まへり惠美の姓と改めば天下の政志
くなくも委細しれよりほり道徳と云は御弓削の氏の
人又冠者ありしは押猪いりしをれ廢帝をせ
免りて上皇の宮にさるぬもんとせし事ありし
きて誅りしぬ帝と漢海より漢海に改めかして
上皇重祚ありしはきん御家せき御改めしは尼
をがく位より辰沙ひあらはせ非常の格也宗んじ
唐の則天皇后と太宗の女御とく人といふ宿も辰
紗といふは太宗がむすひく尼と改め感業と
云すよありしと云宗んたまひく去後せしと

皇后といふも人かざるもかや田らとす高宗崩じ
ぐ中宗皇后たまひしとありしは睿宗と云しは改め
まごありしとありしは帝位は漢國と大周と
ありしは唐の名改めしは唐と改めしは唐と改めしは
中宗睿宗といふが生れしは推して漢と改めしは
くのやう武氏りやをかくとありて國と改めしは
と改めしは漢と改めしは唐と改めしは唐と改めしは
らよとせし漢海たりしは唐と改めしは唐と改めしは
くどめは皇后と推し日本准太皇の皇后と改めしは
大改大臣をいふは唐と改めしは唐と改めしは唐と

之は所とすまじくなされり夫道鏡世とありのまふりしは
あつそふ人のをりしや大は吉備のま備の公右中
藤原は百川をどあつそふ入りまや力ねとさるる
しも法師の宿り任事と唐より始り僧正道統
をく云りれありしそまは出家ありあつそふ
へいもんや俗宿り任事ありぬ事にあそ
りまはとれしは南朝の宋のせり惠琳と云り人
政りゆりひり成思家宰相といひ夫は朝魏の明
の世も惠超と云り僧字士の宿りなり夫は朝魏の明
元帝の代も法果と云り宿女城の爵とあり唐の世も

なりてそあまこまこも夫肅宗の朝り道平といふ人
帝といひひしつりて安祿山が起りてありし
なり金吾將軍りなされりなり代宗は夫天竺
の不空之流とありしは終りありしや特進試鴻
臚卿とありしは終りありしは周府儀同司肅國公
帰寂ありしは司空の宿りなり夫司空は夫天の
朝より此女帝は代りて六十年はりしや夫國の事
お似るしそまは下法治りありしは夫五十七歳
まは夫天武天皇國り大功佛法とてひりありしは
皇胤まは夫此女帝とてなりしは夫女帝は

後小治政は道鏡と下野の海原とありてなりと下野
は美作此後鏡を法王位と内侍とありてなりと
ありてなりと官位と内侍とありてなりと女帝と
ありてなりと内侍とありてなりと和氣の清丸と云人を
勅使とありてなりと宇佐の八幡宮とありてなりと大菩薩内
戸さまは院ありてなりと又ゆりてなりと法丸とありてなり
此まゝも表を道鏡つりてなりと法丸とありてなりと
とありてなりと宇佐の園とありてなりと清丸とありてなり
とありて大菩薩とありてなりと小蛇とありてなりと
とありてなりと光仁位とありてなりと即ちひてなりと別也

久之事神威となりてなりと河内とありてなりと寺殿とあり
神教とありてなりと雄の心とありてなりと今今の神護とあり
是なり件の云とありてなりと神威とありてなりと事
ありて道鏡とありてなりと女帝とありてなりと
ありてなりと宇佐の園とありてなりと八幡の眞
意とありてなりと官統とありてなりと藤原とありてなりと百川の
物とありてなりと功とありてなりと
第百九代有二十七世光仁天皇は施基宮皇子と有る天皇
此御孫なり 皇子と有るの御子なり 進号 御母 贈皇太后紀旅子
贈太政大臣旅人のむとありてなりと白河とありてなりと天平年中

一 卯年二十九日 延元位下と叙し、帝位に昇進せし
 坊沙ひしく正三位勲二等大納言なり。卯年卯月卯日、梅津
 とよまさしくは大臣以下皇胤の中とらふひ中宮なり。其
 との異名あり。かど魯淡百川と云一人此天皇よりいづ
 ちてほりてとらふくして定めて養天武世はたつてはひ
 よりあつそひり人なりきあつてて智神足とて先日嗣を
 けけけひさのうと延元と稱し、國家はと奉り、はり此
 君継躰より世にわたりたり。程正よりうへに養天の世なるに
 卯年先皇太子よりなり。則ち受禪、卯年今年庚戌のう
 ちり十月に改元、平城宮より南、まて三下と治りたまふ

卯十二年七十ニ歳なり。と云
 其の十代者二十ニ世桓武天皇は先仁の子、御母は皇太后
 高節、新羅大政大臣乙継の女なり。先仁即位のうへ
 井上月親王仲女のともちて皇胤と成は、平生の皇子早良
 親王太子より延元位に叙す。而も川乃親王、世を宣う。うち
 はうとめを、人なり。ついで又、うらとて成先づりし皇胤
 をよひ、太子位に叙す。然るに皇太子より、を急なり。養天御志を
 らうと、名許なり。帝位は早日まて、敵の敵なり。と云。中
 宮あり。とてまて、ひを養天の位なり。あまも、や皇胤前
 太子せめ、とてまて、延元とて養天と云。あまら、まて、なり。と云

太皇太后より延喜ありて崇道天皇御辛酉のとき
即位主成り政元はめを平城まきし山背に去る
よつて十年より移るる又今の平安城ありて
山背の國汝とありたれは山城といふ永代より南を
せんほりて世に治ひるむり聖徳太子降るの初
治ひく太奈の城汝とありして四神相成の地あり
百七十余年ありて教とつてこれよりまきし
宮ひるる地戸傳くは元年にたつて又教十代不易
此郡とありぬる汝は王氣相成の地也や崇道天皇
佛法を何れは延喜二十三年傳教弘法初汝より

唐へ治り延則唐の使と汝の宮大使を恭儀左大臣
越前守藤原高野の朝臣なり傳教を天台宗道邃和
尚よりあひく其宗派きのわたりて二十四年大使
とよに爲朝と弘法を汝國よとまりて大同年中
りかり治り此時時東夷叛亂しは坂上の田村丸を
征東大將軍りて汝の宮にありてはなれたる
宗くく汝の宮よりなり此田村丸を武勇人なりと
初に近衛の將監りあり少佐より汝の中將は弘仁
の沖時や大納ありあり大納を汝の宮より文とも
とよに汝の宮の初にありてはなれたる

法之由是言天皇之下と法は終るは二十二年壬午
紀事一由一夫

文政八乙酉冬十月廿二日字之

中村直衛

